

26PB-am296S

調剤過誤事例を用いた実務実習事前学習における学習効果の検討

○門前 一輝¹, 串畑 太郎¹, 安富 暉浩¹, 林 奈央¹, 安原 智久¹, 曾根 知道¹ (¹摂南大薬)

【目的】実務実習事前学習では、大学内で薬剤師職務に必要な基本的知識、技能、態度を修得することが求められている。しかし、実際の臨床現場に馴染みのない学生が自身の想像だけで、臨床上の課題について討議することは限界がある。今回、学生が臨床上の課題をイメージしやすいよう具体的な事例を提示し、World Café (WC) 形式によるグループ演習を実施したので、その学習効果を検討した。

【方法】2016年度事前学習では、リスクマネジメント入門 (S506・S507) を学習するにあたり、病院・薬局で起こりうる「調剤過誤」に関する事例を4例作成した。4年次生205名を1グループ5～6名とし、12グループ×3日のWC形式によるグループ演習を実施した。WCは各ラウンド毎にメンバーを入れ替え、3ラウンドを行った。各ラウンドのテーマは、1.過誤が起きた状況・原因の探索、2.過誤が起きた場合の対処法、3.過誤を起ささないための具体策について討議した。また、討議の際に出た意見をラウンド毎に色別で付箋に書き出し模造紙に貼りつけ、討議終了後、模造紙を回収し意見を抽出した。

【結果】抽出された意見は、第1ラウンドでは「薬剤師の確認不足」58件、「薬剤師の能力的問題」42件、「薬剤師の手技的問題」24件といった「薬剤師的要因」が142件、「システム・体制的問題」88件、第2ラウンドでは「患者側に事情を説明し謝罪」32件、「直ちに患者の容態を確認する」25件、第3ラウンドでは「薬剤師的要因への対応策」73件、「システム・体制的問題の改善」121件であった。

【考察】第1ラウンドでは「薬剤師的要因」が最も多いが、第3ラウンドの改善策では「システム体制的問題」を見直す意見が多く、薬剤師個々の能力の改善でなく、業務システム改善を目的とした討議がされていたと考えられる。